

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003090		
法人名	株式会社 ウェルフェイス		
事業所名	グループホーム彩風 1F		
所在地	北見市川東66番地28		
自己評価作成日	平成30年12月6日	評価結果市町村受理日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0195003090-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では「ありのままを受け入れ、ともに支え助け合い、自分らしく今を生きる。」を事業所理念としてグループホームで穏やかに暮らせるよう入居者、家族、地域住民、職員が支えあって支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを最後まで営めるよう支援することで生きがいや喜びを共感し共存する」の法人理念をもとに「ありのままを受け入れ、ともに支え助け合い、自分らしく今を生きる」をグループホーム理念として平成29年開設された『グループホーム彩風』は、和やかで明るい雰囲気がいっぱいあり、笑顔を意識した介護に取り組むべく毎日実践している。職員の提案で利用者がかつて普通に行っていた日常の作業を無理なく取り入れてはと、毎食後に自分の食器を洗う事を始め、洗濯物を畳んだりと役割を持ち、生き甲斐につなげている。また、利用者家族との信頼関係が築けるよう状況報告や普段の様子を小まめにお知らせするよう努めている。介護計画の見直し時期には利用者、家族が参加したサービス担当者会議を開催しており、状況によっては医師、看護師同席での開催と安心できる取り組みを行っている。職員は利用者の思いが実現できる生活、自分らしく生きる生活を目指しており、身体拘束や接遇、看取りケアについて自分たちで資料を用意して内部研修に取り組んでおり、意識の高い事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し常に意識出来る様にしている。 また、新人研修でも周知を行っている。 また反復することで実践に繋がる様に努めている。	開設時に施設長が作成した理念と法人理念を各ユニット廊下に掲示して有る他、パンフレットに記載して利用者、家族、職員に周知している。新人研修や会議の中で理念についての話をを行い、最終的に行きつくところは理念であることを共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練や行事に参加協力を依頼している。 広報誌を町内会にも配布している。 行事の際に地域の保育園等にも協力して貰っている。 また地域での行事や包括支援センターの活動に参加している。	町内会に加入し総会や行事に参加したり清掃活動に協力している。毎月、回覧板を利用して広報を掲載し、理解につなげている。地域保育園やボランティアの訪問があり交流しており、今後事業所では地域に呼びかけたお祭り開催を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を活用して情報交換し地域の困りごと等への意見交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動内容等を報告し意見を求めるようにしている。	運営推進会議は2か月ごとに利用者、家族、町内会役員、民生委員、市担当者、高齢者相談支援センター職員の出席を得て開催し、活動、状況報告を行い意見を得ている。また同時に身体拘束廃止検討委員会を行い事業所の取り組み、現状を報告しており適切な運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や事故発生時等に定期的に連携を図り意見を頂いている。	市担当者とは介護保険についてや防災対策について積極的に話をしながら情報を得ており、連携を図りながら協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施し理解を深めている。また、普段の業務の中でも職員間で連携を図り言葉使い等にも注意しながら身体拘束にならぬ様に努めている。 また、状況に応じて身体拘束に成りうる可能性等を説明し理解が深まる様に努めている。	身体拘束廃止に向けては、運営推進会議を廃止検討委員会として活用し事業所の取り組み、現状について話をし検討している。職員の研修については全体会議で内部研修に取り組み、個人アンケートをもとに事例について話し合いを行い3ロックについて理解を得ており、適切な介護が出来るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修(定例会議にて)、外部研修に参加し理解を深めている。 また、普段の業務の中でも虐待に当たらないか検討しながら支援をしている。		

グループホーム 彩風

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、対応できる様に研修参加等をし理解を深める様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時に概要等を説明し、契約時にも疑問点等を解消しながら理解を得たうえで契約に繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様へは普段から意向確認等をする様に努めている。 ご家族様へは面会時や運営推進会議の場などで意見等を頂き反映させている。	利用者の意向は日常の会話の中で把握するよう努め、家族の意見は面会時や運営推進会議の場で伺い、運営に反映させている。日常の様子は毎月発行の広報誌や面会時には丁寧に会話してお伝えしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議やミーティング等で意見交換をしている。また、必要に応じて個別面談を行い意見を聞く環境を作っている。	職員の意見や提案は、業務の中や毎月の全体会議の中で把握している。職員からは利用者の日常についての提案があり、自分の食器の片づけ、洗浄を行うことで張り合いのある日常生活の実現を目指している。また、各職員が毎月の内部研修の講師になり研修を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境や体調面等を定期的に確認し、勤務継続できる様に配慮している。 希望の休み等も可能な限りとれるよう配慮している。また、昇給に関しては年に1回見直しをかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を立て対応している。 また、社内研修も定例会議にて実施している。 外部研修案内を職員へ周知し参加希望を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の各協議会や連絡会への活動等に参加し交流や情報交換等をしている。 また、研修等に参加した際に情報交換を行っている。交換した情報を定例会議等で共有する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し要望等を確認する様にしている。 また、入居後は生活環境が変わるので不安感等が最小限になる様に声掛け等を行い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とご家族様の関係性が崩れない様に配慮しながら希望を確認し対応している。 また入居生活の中での出来事等を適時報告し意見等を頂く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで生活するうえで何が必要かを考え優先するべき事から支援を行っている。 また都度、支援が適切であるか見直しを掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、後片付け等、協力して頂ける事を積極的に利用者様に協力して頂き一人一人に役割を持って貰い職員と一緒に共同生活していると認識して貰える様に支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	買い物や受診等は、可能な限りご家族様に協力頂いている。 また、行事等にも参加して頂き一緒に過ごす時間も大切にしている。 また、不安な事等は職員も一緒に考え対応する様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、身内の方が面会に来てくれる様に可能な限りご家族様に協力頂ける様にしている。 また、お盆等にはお墓参り等に行ける様にご家族様の協力を頂ける様に努めている。	利用者の馴染みの美容室へは家族の協力を得て訪問し、同時に外食に出かけ気分転換を図っている。 また、知人の訪問があり関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等の活動を通じてご利用者様間での関係性を把握し、ご利用者様が助け合いながら生活を出来る様に、必要に応じて職員も一緒に関わりを持ちながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様に相談等は出来る事を伝えている。また、ご家族様に会った際には挨拶をし近況等を聞く様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認しながら支援をする際には、本人にとって最善となる方法を考える様に努めている。また本人の意向の変化等にも迅速に対応できる様に努めている。	利用者1人ひとりの思いや暮らし方の意向は日常の会話の中で把握するよう努めており、日常の役割や趣味のものに取り組んだり、本を読む等で本人の希望が叶うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様、ケアマネ等から情報収集をしている。また、日々の会話の中からの情報を記録等に残し把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や睡眠時間、会話の内容等から当日の状態確認に努め、日内変動等があっても都度状況を見極め対応する様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと定例会議にて検討し計画に反映している。医療連携事業所や訪問看護等と情報交換をし反映する様に努めている。	介護計画は基本的には6か月ごとに利用者、家族の出席を得てサービス担当者会議を行い要望を把握して見直しを行っている。医師、看護師が出席する時もあり、現状に即した介護計画でサービス提供が出来るよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には言動やその時の様子等も記載する様にし、読んだ職員が状況を想定できる様にしている。また、計画書も本人、ご家族様、職員が実施すべき内容を細かく記載し分かりやすくなる様に配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態やご家族様の状態が変化した際には、協議を行い一緒に問題解決が出来る様に配慮している。また、本人やご家族様のニーズの把握に努め、可能な限り対応できる様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター等と連携を図っている。また、地域の保育園やボランティア団体に慰問を依頼したり、避難訓練等に町内会の方の参加を要請している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際に必要な応じて付き添いを行い対応している。また、訪問看護等と連携を図りアドバイス等を頂いて受診がスムーズになる様に努めている。	利用者、家族の希望する医療機関への通院は家族の協力を得て行っており、情報を共有している。往診の体制も整えている。週一度訪問看護師が訪問し、利用者の健康管理を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携事業所や訪問看護師と、訪問時に情報交換し共有できるよう努めている。また、訪問時以外にも必要時には電話等で連携を図り支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診の際から必要に応じて付き添いを行い対応し入院となってもスムーズに情報提供できる様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、ターミナルケアの指針を入居時に説明し、看取り開始時には再度、説明と同意書を得てから開始する様になっている。	入居時に重度化、看取り介護指針で事業所の対応を説明し同意を得ている。必要時には医師を交えて再度説明と同意書を交す事としている。看取りの前段階に於いても家族、医師が参加してのサービス担当者会議を開催し、意向を確認して希望に沿った対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習等を定期的に行い対応できる様にしている。 また、緊急時用の個人ファイルを作成し医療機関等に適切な情報が提供できる様に対策をしている。 また、事故報告やヒヤリハット報告を定例会議で毎月検討し再発防止に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防災訓練を定期的を実施している。 また、訓練には町内会の方や消防職員にも参加して頂いている。	年2回の火災避難訓練を日中、夜間想定で消防、防災業者、地域住民の参加を得て実施している。 職員が必ず一回は参加できるように配慮し、難しい場合は伝達講習で周知を図っている。大規模停電を経験し、発電機、ジェットヒーターを用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段の何気ない会話等でも強制や押し付け、否定的にならない様に意識しながら声掛け等を行っている。	社内研修で身体拘束のアンケートを行いその中で不適切な言葉使いを学び、尊厳や羞恥心に配慮し、特に排泄時や入浴時に注意を払った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活において叶えられない希望も多いが、可能な限り希望に添って暮らせる様に努めている。 また、選択できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は適時、本人と相談しながら対応している。 また、その日の体調や状況等も考慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人に選択してもらいながら更衣している。 また、女性の場合は化粧等も本人の意向を踏まえてご家族様と相談し依頼して持参して貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に献立がわかる様にホワイトボードに書いている。 焼肉会や焼き芋等で季節感のある食事を楽しめる様にしている。 日々の食事では片付け等、出来る事は自分でして貰う様にしている。	法人の配食業者によるバランスや季節感に配慮した食事を提供している。ドライブに出かけ外食を楽しんだり、焼き芋等、季節に合わせたおやつを手づくりしたり、誕生会に希望のメニューをリクエストして食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食量、水分量は把握し管理している。 また、体調や状態に応じた食事形態で提供するように努めている。 おやつ等も本人の嗜好に合わせて用意して頂いたりもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床就寝時や食後に口腔ケアを実施している。 また、定期的に義歯の洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。 また、おむつ使用時も排泄間隔等を把握し適切なタイミングで交換できる様に配慮している。	トイレの入り口は3枚戸で大きく開き、便器は斜めに配置されマヒがある利用者がいても使い易いようになっている。手洗いもトイレ内に設置され衛生的になっている。排泄記録を参考に、利用者に合わせてプライバシーに配慮した声かけ誘導での排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表など活用しながら排便状況の把握に努めている。また、必要時には下剤を使用し調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分等を考慮しながら可能な限り本人の希望のタイミングで入浴が出来る様に努めている。	週2回は入浴できるように支援している。午前、午後等時間や同性介助等の希望を聞き、意向に沿った入浴支援を行っている。浴槽は三方向から介助出来るよう設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り夜間帯に良眠出来る様に日中帯に傾眠にならない様注意している。(足浴の実施、日中のレク活動)本人の希望や体調等に応じて休息や睡眠が出来るよう支援している。また、夜間寝れない状況にあっても無理に寝る様に促さない対応を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できる様にマニュアルに沿って支援をしている。また、薬情ファイルを用いてどの様な薬を飲んでいるのか把握できる様にしている。医療機関から変更や追加の指示があった時にはすぐに周知出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活を送る為に、それぞれの能力に応じた活動を行っている。 また、集団で体操等を行い楽しめる様にしている。		

グループホーム 彩風

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診だけが外出の機会にならない様に、天候や体調を確認しながら外出支援を行っている。また、年2回バスレクリエーションを企画している。	天候や体調に合わせ外出の機会を持つように支援している。年に2回はバスレクリエーションに出かけ楽しんでいる他に季節に合わせドライブ等に出かけ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買い物等に行った際には自分で支払い等をして貰う様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯の持ち込みを許可しており自由に使っている。また、必要な際には事務所の電話を使用して貰っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは整理整頓を心掛け不快のない様に対応している。また、壁には季節に応じたちぎり絵等を利用者様と作成し飾り付けている。	事業所内は日当たりがよく明るさを調整したり、大型加湿器を配置して温度湿度に配慮し快適な空間を提供している。毎月利用者が作成する作品が飾っており、温かみのある雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の席等は利用者様同士の関係性等に配慮しながら決定している。食事以外の時には自由に座ってもらい会話等をして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはなじみの物等を持ち込んで頂き、福祉用具が必要であれば貸し出す等の対応をしている。	居室には洗面台、クローゼットが設置されている。利用者は使い慣れた家具や家族の写真を配置して自分らしく寛げる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所が見てわかる様に掲示物等で工夫をしている。また、出来る事を安全に行って頂ける様に環境整備に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003090		
法人名	株式会社 ウェルフェイス		
事業所名	グループホーム彩風 2F		
所在地	北見市川東66番地28		
自己評価作成日	平成30年12月6日	評価結果市町村受理日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0195003090-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では「ありのままを受け入れ、ともに支え助け合い、自分らしく今を生きる。」を事業所理念としてグループホームで穏やかに暮らせるよう入居者、家族、地域住民、職員が支えあって支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（2F）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練や行事に参加してもらっている。また、広報誌を町内会にも配布している。 行事の際には地域の保育園などにも協力してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用して情報交換などしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動内容など報告し意見を求めるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や事故発生時など定期的に連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上施錠はしているが、利用者が希望した際には散歩やドライブなど外出支援している。 また、定期的に勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内、外研修に参加している。 また、普段から虐待に当たらないか検討しながら支援している。		

グループホーム 彩風

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、対応できるよう研修参加するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来た際に説明し、理解を得たうえで申し込みもらい契約につなげている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は普段から意向確認するよう努めている。家族は面会時や運営推進会議の場などで確認している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議やミーティングで意見交換をしている。また、必要に応じて個別面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休みなど可能な限りとれるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を掲示参加希望をとっている。また、社内研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に交流している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（2F）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し要望など確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し要望など確認するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族から情報を得ながら、不安なく暮らせるよう必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、後片付けなど利用者一人ひとりが行える範囲で、できるだけ協力してもらいながら一緒に過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	買い物や受診などは、可能な限り家族に協力頂いている。また、行事にも参加して頂き一緒に過ごす時間も大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に確認のもと、友人知人身内の方が面会に来てくれている。また、お盆などにはお墓参りなども家族の協力のもと行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事などの活動を通じて利用者間の関係性を確認し、必要に応じて職員も一緒に関わりを持ちながら対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族より近況報告など受けている。また、いつでも相談できる場として活用して頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望を聞くのみでなく、会話の中からも本人の意向など読み取りその情報を職員間で共有しながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネ等から情報収集や日々の会話の中でも把握できるよう努めている。また、入居時に個人個人の年表を作成し会話や支援の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送りなどで一日一日の生活状況を共有している。また、定例会議でもケース検討をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療機関や訪問看護などとも連携しながらプラン作成している。また、定例会議でも意見を出し合いプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は必要な項目が見てわかるように様式を工夫している。また、記入する際にも表情や言動を正確に書くように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じたサービスが取り入れられるか確認しながら、可能な限りニーズ解決ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園やボランティア団体に慰問を依頼したり、避難訓練などにも町内会の方の参加を要請したりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医との関係が途切れないよう受診支援を行っている。また、必要時には職員が付き添うなどして連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師や訪問看護師とは、訪問時に情報交換し共有できるよう努めている。また、訪問時以外にも必要時には電話等で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必要な情報交換は行っている。特に入院時には書面にて情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は今まで無いが、定期的に研修を行い対応できるよう努めている。また、本人、家族へは契約時に指針を説明し理解を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を年1回実施している。また、事故報告やヒヤリハット報告などは定例会議で検証して再発防止に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防災訓練は定期的実施している。また、訓練には町内会にの方や消防職員にも参加して頂いている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強制や押し付けにならないように意識しながら声掛けなど行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活においても自己決定できるよう声掛け等支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調など状況に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容室が来てくれている。また、服装や化粧なども本人の意向を尊重しながら支援している。		

グループホーム 彩風

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食など季節感のある食事を楽しめる様努めている。また日々の食事では片付けなど出来る事は自分でしてもらうようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回確認し管理している。また、体調や状態に応じた食事形態で提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床就寝時や毎食後に口腔ケアを実施している。また、口腔内の状態によって歯科受診を進めるなど対応もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。また、それぞれに合った排泄用品も活用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表など活用しながら排便状況の把握に努めている。また、必要時には下剤を使用し調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴機会は確保しながら、午前、午後など本人に入る時間を決めてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調等に応じて休息や睡眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情などを用いて効能などを確認し、医療機関から変更や追加の指示があった時にはすぐに周知を図り確実な服用に繋げている。また服用状況によって粉砕処方などを依頼している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きな事を探りながら生活の中に取り入れ気分転換が図れるよう支援行っている。また食器洗い、居室掃除など出来る範囲で協力をしてもらっている。		

グループホーム 彩風

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事やドライブ、散歩など行いながら気分転換を図っている。また家族と一緒に外出や外食をされたり外泊などされている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金契約を結んでいる方はいないが、外出や受診などは家族の協力を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙のやり取りは自由に行っている。また携帯電話を持っている方もおり知人などと会話を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に合わせて飾り付けを行ったり利用者が創作した物を飾ったりしている。また不快な音や光がないか確認をしながら環境の整備に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファがありテレビを観たり会話を楽しむ場所となっている。また一人になれる特別な空間はないが、居室で過ごす時間なども大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して頂き不安なく生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリー化で手すりを設置しており、各居室には名前表記やトイレの表示をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 彩風

作成日：平成 31年 1月 10日

市町村受理日：平成 31年 1月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	面会簿はノートに記入してもらっており、いつ誰が来たかがわかってしまう状態であった。	面会簿の仕様を変更する事で、家族の面会状況や家族名前、続柄等のプライバシーに配慮していく。	面会簿をノートから1枚の面会記録用紙に変更し、面会時には一回一回記入してもらいポストに投函してもらうようにする。	1ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。